

処方解析演習/実践的薬学演習

責任者・コーディネーター	薬物代謝動態学分野 小澤 正吾 教授		
担当分野・学科(分野)	薬物代謝動態学分野、創剤学分野、臨床医化学分野、機能生化学分野		
対象学年	5	区分・時間数	講義 12時間
期間	通期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

保険調剤薬局、病院薬剤部に勤務する薬剤師は「薬の専門家」である。処方せんを持って薬局を訪れた患者に対して、在宅医療の場や、ベッドサイドで、有効性、安全性を最大にする薬物療法の施行を第一義に考えることが求められている。処方せんをみた薬剤師は、処方内容から、患者の疾患、ならびにその重症度を推測するとともに、処方が適正であるかどうかを判断する資質を身につける必要がある。本科目では、5年次の小人数のグループ討論を含む演習科目（自由科目）とし、卒業研究に従事している時期の学生を対象とする。従って、年間で3つの時期に8コマずつ実施する。実務実習前の学生については、これまでに学んできた医療系科目の知識を動員し、実務実習を終えた学生の場合は、その知識と経験を生かし、処方せんをみて、必要に応じた疑義照会や、適正な服薬指導を施行する能力を養うための演習を行う。薬剤師は特にハイリスク薬を使用している患者さんの状態を把握し、定期的に薬局を来訪する患者につき、普段と変わった兆候がないかどうかを確認する必要がある。ひいては、想定される副作用を未然に防止、あるいは副作用を早期に発見し重症になることを防止することで薬物療法を支える職種である。本科目では、各種疾患の症候の理解、処方内容の吟味、ならびに医薬品情報の収集と評価を通じて、処方薬物の特徴を十分に理解する。さらに、患者の疾患の推定と重症度の評価を行い、これらに関する調査結果を発表し、討論する。本科目全般を通じて、薬物の適正使用を施行する能力を身につけることを基本理念とする。

・教育成果（アウトカム）

患者が持参した処方せんや可能であれば得られた患者情報を基に、グループ学習と発表・討論を通じて、疾患とその重症度を推定・評価することで、適正な薬物療法を考案できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：2, 4)

・到達目標（SBO）

1. 代表的な疾患の症候について理解し、概説できる。
2. 処方内容から、疾患名、および重症度を判断できる。
3. 処方薬物について、警告、禁忌、薬物相互作用を調査し、発表できる。
4. 処方医薬品の製剤の意義と、医薬品の適正使用の関連について調査し、発表できる。
5. 処方内容のほかに考えられる適切な薬物療法を考案し、発表できる。

・ 講義日程

(矢) 東 SGL35・36・37、東 SGL43・44、東 205 セミナール室

クラス	月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
1	5/10	木	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	本演習科目のねらいを知る。 疾患と処方薬の基本的な特性の関 係に配慮できるようになる。
1	5/17	木	1	創剤学分野	佐塚 泰之 教授	薬名、組成、製剤の特徴(剤形)に ついてより深く学び、剤形の重要 性に配慮できるようになる。
1	5/24	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	症例解析・処方解析の実践例を学 び、処方内容、随伴疾患の症候と重 症度の評価ができるようになる。 1. 「医療薬学」等で学習してきた疾 患について、病態(病態生理、症状 等)・薬物治療(医薬品の選択等) を説明できるようになる。 代表的な疾患の症候について理解 し、概説できるようになる。 2. 処方内容から、疾患名、および重 症度を判断できるようになる。 3. 処方薬物について、警告、禁忌、 薬物相互作用を調査し、説明でき るようになる。 4. 処方内容のほかに考えられる適切 な薬物療法に配慮できるようにな る。
1	5/31	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析 の実践ができるようになる。 (参考書・内科学症例図説の症例・ 処方から1つを選択)
1	6/7	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析 の実践ができるようになる。 (参考書・内科学症例図説の症例・ 処方から1つを選択)
1	6/14	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析 の実践ができるようになる。 (参考書・内科学症例図説の症例・ 処方から1つを選択)
1	6/21	木	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野 機能生化学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の調査結果と実 践方法について発表と討論を行う。 症例解析や処方解析の実践法につ いて発表討論を通じて理解できるよ うになる。

1	6/28	木	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野 機能生化学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の調査結果と実践方法について発表と討論を行う。症例解析や処方解析の実践法について発表討論を通じて理解できるようになる。
3	11/8	木	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	本演習科目のねらいを知る。疾患と処方薬の基本的な特性の関心に配慮できるようになる。
3	11/15	木	1	創剤学分野	佐塚 泰之 教授	薬名、組成、製剤の特徴（剤形）についてより深く学び、剤形の重要性に配慮できるようになる。
3	11/22	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	症例解析・処方解析の実践例を学び、処方内容、随伴疾患の症候と重症度の評価ができるようになる。 1. 「医療薬学」等で学習してきた疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できるようになる。 代表的な疾患の症候について理解し、概説できるようになる。 2. 処方内容から、疾患名、および重症度を判断できるようになる。 3. 処方薬物について、警告、禁忌、薬物相互作用を調査し、説明できるようになる。 4. 処方内容のほかに考えられる適切な薬物療法に配慮できるようになる。
3	11/29	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析の実践ができるようになる。 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
3	12/6	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析の実践ができるようになる。 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
3	12/13	木	1	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	グループ課題学習を通じて処方解析の実践ができるようになる。 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
3	12/20	木	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授	症例解析・処方解析の調査結果と実践方法について発表と討論を行う。症例解析や処方解析の

				機能生化学分野 臨床医化学分野	中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	実践法について発表討論を通じて理解できるようになる。
3	12/21	金	1	薬物代謝動態学分野 創剤学分野 臨床医化学分野 機能生化学分野 臨床医化学分野	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の調査結果と実践方法について発表と討論を行う。症例解析や処方解析の実践法について発表討論を通じて理解できるようになる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬物治療学 改訂第4版	吉尾 隆 他 編	南山堂	2015
参	内科学症例図説	杉本 恒明 他 編	朝倉書店	2009

・成績評価方法

情報検索・プレゼンテーション資料作成（20％）、発表（80％）で評価する。

・特記事項・その他

各期3回目までは、各回の重要ポイントについて詳細に解説された点について復習する。4回目以降の調査と発表に備え、これまでいろいろな科目で勉強した疾患と薬物治療を振り返り、興味ある疾患を取り上げて徹底的に調査し、発表してほしい。5回目からは各自が行った調査と作成した発表資料を振り返り、次の回での作業について予め考えて臨むとよい。本科目では、発表とそれに対する質疑応答が最も重要であり、発表、質疑応答に関して、その授業時間内にフィードバックする。授業に対する事前学修（予習・復習）の時間の目安は30分である。